

ノロウイルス GII.P17-GII.17 の検出状況について

ノロウイルス(NV)GII.P17-GII.17 は、2014年に発見された新規遺伝子型ウイルスです。ヒトが免疫を持っていないため大流行することが懸念されていましたが、注意喚起が功を奏したのか心配されていたほどの流行は起こりませんでした。しかし、2017年1月にきざみのりを原因とする大規模食中毒が起こり、その原因ウイルスが NVGII.P17-GII.17 であり、再び注目を集めました。

本県では、2015年1月に初めて NVGII.17 を検出し、その後、現在までに散发事例、集団事例(1事例1と計上)合わせて31例検出しており、そのうち GII.P17-GII.17 とわかっているのは29例です。

本県で検出した GII.17 のシーズン[※]別発生状況(図1)は、初めて検出した2014/15シーズンと2015/16シーズンは10例を超える検出数がありました。2016/17、2017/18シーズンは1例ずつに減少していますが、検出は続いています。また月別検出状況(図2)は、1月以降に検出が多く春先まで検出があります。

2014/15シーズン、2015/16シーズンに検出した29例について、NVの免疫に関与する部分とされる外殻蛋白(VP1)領域全長の塩基配列をプライマーウォーキング法により解読しました。解読できた10検体について系統樹解析を行った結果、同一のクラスターに分類されました(図3)。クラスターは同じですが、香港で検出されている株に近い株や台湾で検出されている株に近い株など同じウイルスではなく、異なるウイルスが流入し流行していたことがわかりました。2016/17、2017/18シーズンに検出した2例についても解析を迅速に進めていきたいと考えています。

昨シーズンは GII.2 が単発的に流行しましたが、2006年、2012年に大流行を引き起こした GII.4 は現在も主流遺伝子型として検出率が高い状況です。前回の GII.4 の大流行から既に6年が経過しており、新たな変異株の出現と流行が懸念されます。現在、ノロウイルス胃腸炎は減少傾向ですが、発生動向に注意が必要です。

※NVは、9月から翌年8月を1シーズンとします。

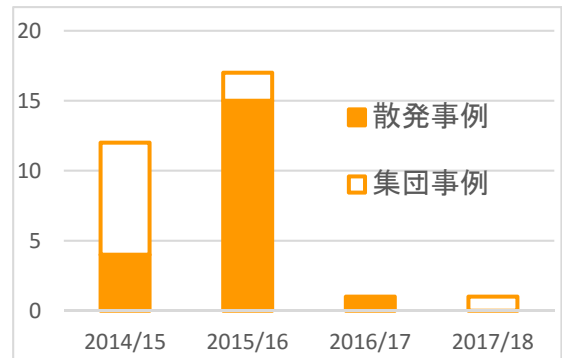


図1 GII.17 のシーズン別発生状況

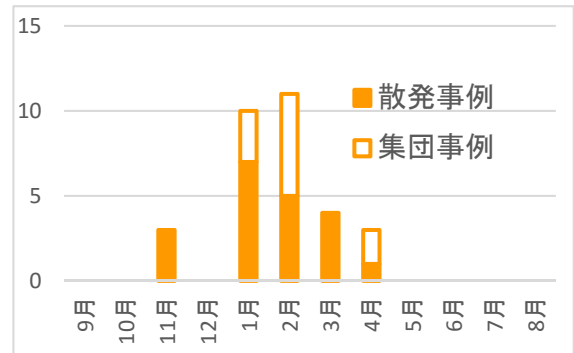


図2 GII.17 の月別検出状況

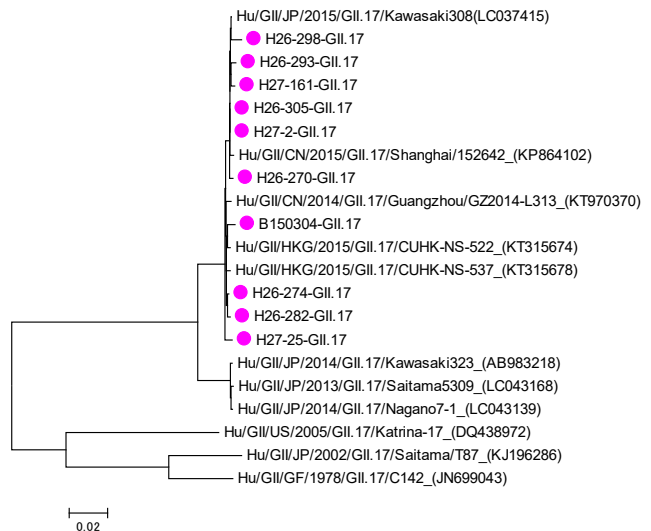


図3 GII.17 の VP1 領域の系統樹